

## 共用試験医学系診療参加型臨床実習後 OSCE（機構課題） 受験の注意事項

Post-CC OSCE では、卒後臨床初期研修の開始時に必要とされる臨床能力のうち、以下の内容が臨床現場に即して定められた時間内に適切に実施できるかを評価します。

- <設定> 外来または病棟における診察（救急外来を含む）
- <対象> 成人・小児の健康上の問題（「臨床研修開始時に必要とされる技能と態度に関する学修・評価項目」を参照）
- <内容> ① 患者さんの状態と心理的・社会的背景への配慮、ならびにコミュニケーション  
② 医療面接  
③ 身体診察  
④ 得られた情報に基づく病態の解釈と頻度の高い、あるいは重要な疾患の想起（臨床推論）  
⑤ 指導医への症例プレゼンテーション  
⑥ 医療安全・感染対策の遵守

主訴から病態を推測し、そのための医療面接を行い、医療面接で得た情報をより鑑別診断につなげるために身体診察を行い、その思考過程を過不足なく指導医に報告できるかどうかを評価しています。決して「単に鑑別疾患が正しければよい」とか、「なるべくいろんな診察をすればよい」ということではありません。限られた時間で、医療面接も身体診察も優先順位をつけて効率よく行うことが求められています。

### 1. 受験前の準備

受験生は、事前の説明で OSCE 会場、待機室、試験の流れ、注意事項をよく理解しておくこと。

### 2. 受験当日：試験開始前に試験室もしくは控え室にて

評価者から、「課題を読んでください。試験開始後、メモ用紙は自由に使ってください。」というアナウンスがあります。事前に目を通すシートは以下のとおりです。目を通す時間は試験時間には含まれません。

#### ・課題シート

課題シートには、場面（初診外来か、病棟か）、患者氏名、年齢が記載されています。病棟の病室を想定した課題がありますので、よく目を通してください。また、医療面接と身体診察とで 12 分間であること、指導医への報告のためのメモ用紙を使用してよいこと、情報整理と指導医への報告とで 4 分間であること

などが記載されています。

- ・カルテに記載されている内容（病棟課題のみ）

病棟患者では、もともとその患者がなぜ入院しているのかなどの簡単な状況などが記載されています。初診外来場面ではこの用紙は使用しません。

- ・指導医への報告のためのメモ用紙

試験開始前の書き込みは禁止します。試験開始後に使ってください。評価対象とはしませんが、終了後は回収します。

### 3. 試験中の注意

- 1) 模擬患者の待機場所は各大学の状況、また場面（初診外来か、病棟か）によって異なります。
- 2) 「開始してください」という合図とともに開始してください。
- 3) 医療面接と身体診察の 12 分間は、受験生が自由に時間配分してください。なお、模擬患者は試験開始後 12 分経過するまでは試験室に留まり、12 分経過の合図と共に退出します。
- 4) 病棟場面では、その患者さんとは初対面として診療を始めてください。ただし、あなたが診療することは予め指導医から患者さんに説明して承諾を得ているという設定です。
- 5) 身体診察の際には、何の診察をしているのか、また所見がどうであるかを述べながらおこなってください。
- 6) 身体診察の一部においてシミュレータを使用する場合があります。
- 7) 身体診察所見を、紙、音、動画などの媒体を用いて提示する場合があります。
- 8) 小児を対象とした課題の場合、家族からの情報収集が必要になります。また課題によっては小児シミュレータに対して全身の診察を行うことが適切な場合があります。
- 9) 医療面接模擬患者と身体診察模擬患者が別の場合、途中で入れ替わることがあります。同一患者さんだと思って試験を続けてください。
- 10) 身体診察中に病歴を医療面接模擬患者に尋ねることが可能です。医療面接と身体診察で模擬患者が異なる場合は、医療面接模擬患者に病歴を尋ねてください。
- 11) 12 分後に「今から 4 分間で、情報の整理と指導医への報告とをおこなってください。」というアナウンスがあります。情報整理ができたと思ったら、指導医への報告を始めてください（評価者を指導医と思って報告します）。
- 12) 指導医への報告には、患者さんから得た情報、鑑別すべき病態・疾患とその根拠を含めてください。
- 13) アナウンス・合図について：課題開始時、診察終了時、試験終了時以外の合図については、大学独自のアナウンスがある場合があります。経過時間の確認の仕方については大学に確認してください。

### 4. 試験後

合図とともに試験室から退室して移動してください。